【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第２区分
【発行日】平成28年6月9日(2016.6.9)

【公開番号】特開2014-206195(P2014-206195A)
【公開日】平成26年10月30日(2014.10.30)
【年通号数】公開・登録公報2014-060
【出願番号】特願2013-82930(P2013-82930)
【国際特許分類】
Ｆ１６Ｂ　17/00　(2006.01)
Ｆ１６Ｂ　13/14　(2006.01)
Ｆ１６Ｊ　13/14　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ１６Ｂ　17/00　Ｃ
Ｆ１６Ｂ　13/14　Ｂ
Ｆ１６Ｊ　13/14

【手続補正書】
【提出日】平成28年4月8日(2016.4.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
被取付部材の取付孔に固定される留め具であって、
前記取付孔への挿入される柱状の脚部と、
前記脚部の挿入方向手前側にある第１端部に、裏面が接続されたフランジ部と、
前記脚部の前記第１端部の逆側にある第２端部に一方の端部が、接続部分を折り曲げ可能に、接続された爪部と、を有する、留め具。
【請求項２】
前記接続部分を折り曲げて前記爪部と前記脚部を前記取付孔に挿入した状態で、前記爪部が前記被取付部材に係合するように構成された、請求項１に記載の留め具。
【請求項３】
前記脚部は、前記接続部分で折り曲げた前記爪部の少なくとも一部を収容する凹部を有する、請求項１又は請求項２に記載の留め具。
【請求項４】
前記爪部は、前記挿入方向の中間部で屈折しており、前記接続部分を折り曲げたとき、前記脚部と接続されていない先端の近傍が前記凹部から外側に突出する、請求項３に記載の留め具。
【請求項５】
前記爪部は、前記接続部分を折り曲げた状態で、前記先端の前記フランジ部に近い所定長の部分が内側に狭まった段付き形状であり、前記段付き形状により前記先端を前記取付孔に係合させる、請求項１に記載の留め具。